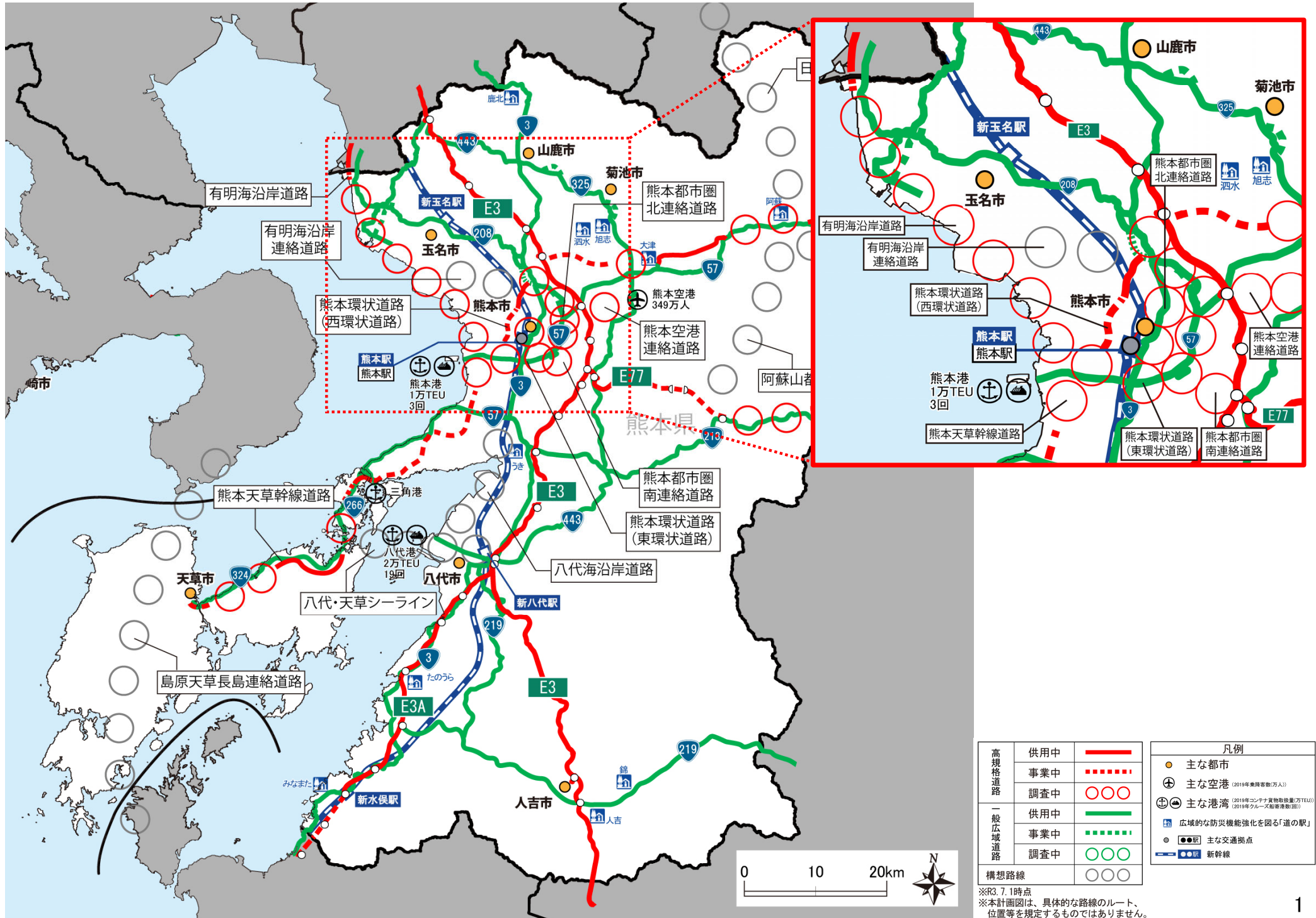


第1回 熊本県有明海沿岸道路連絡調整会議

1. 新広域道路交通計画
2. 有明海沿岸道路の整備状況
3. 地域の現状課題

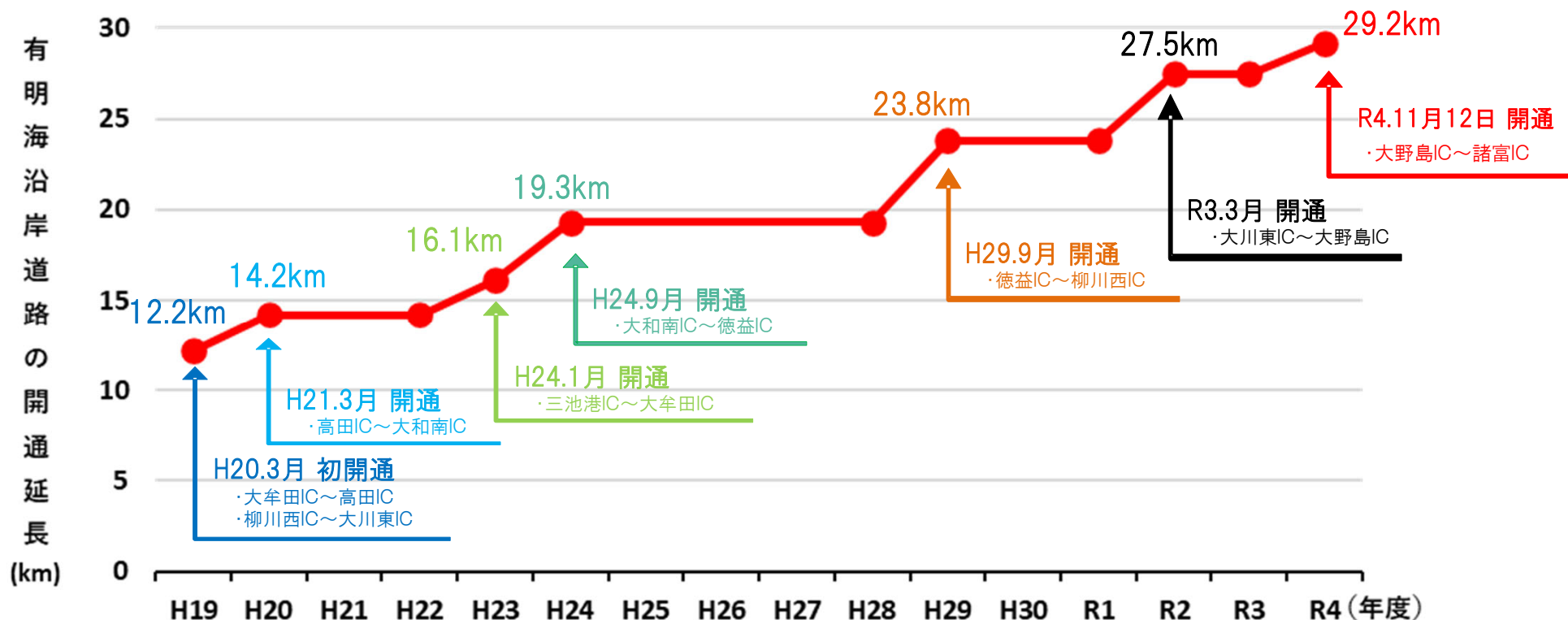
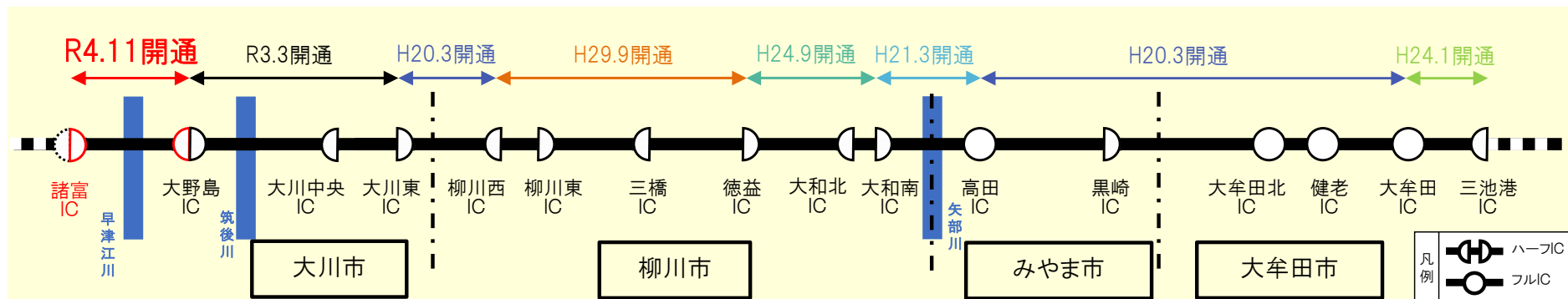
令和4年12月13日

1. 新広域道路交通計画(広域道路ネットワーク計画図)



2. 有明海沿岸道路の整備状況(全体)

- 平成20年3月に初開通、令和3年3月には、大牟田市の三池港ICから大川市の大野島ICまでの福岡県区間が全線開通。
- 令和4年11月12日に大野島IC～諸富IC間が開通。



2. 有明海沿岸道路の整備状況(全体)

▶ 三池港ICから諸富ICまでの直轄区間の延長29.2kmが開通済。



2. 有明海沿岸道路の整備状況(三池港IC連絡路)

➤ 三池港IC周辺の高潮による冠水など、災害発生時の機能確保に向け、事業に着手。(令和4年1月に、着工式を実施)



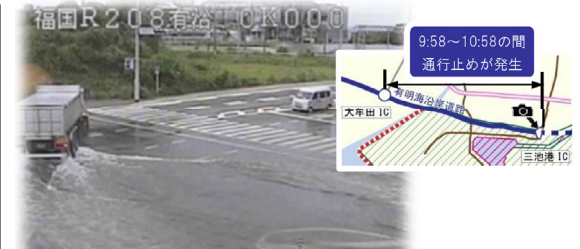
《路線位置図》



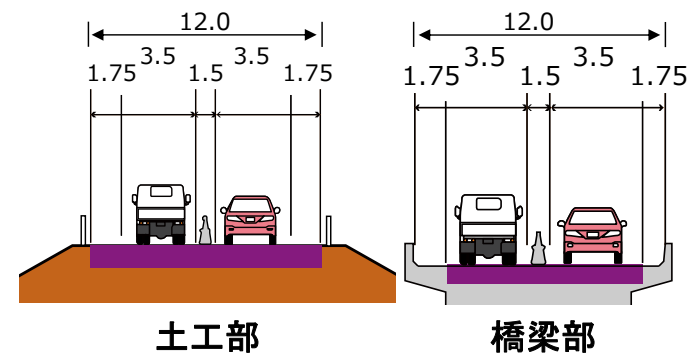
《諸元等》

道路規格	: 1種3級
延長	: 2.7km
幅員	: 12.0m
車線数	: 2車線

《三池港ICの冠水状況(H24.9.17)》



《横断面図》



2. 有明海沿岸道路の整備状況(三池港IC連絡路 起点側)



R4.10 撮影

2. 有明海沿岸道路の整備状況(三池港IC連絡路 起点側)



R4.10 撮影

2. 有明海沿岸道路の整備状況(三池港IC連絡路 終点側)



R4.10 撮影

2. 有明海沿岸道路の整備状況(三池港IC連絡路 終点側)

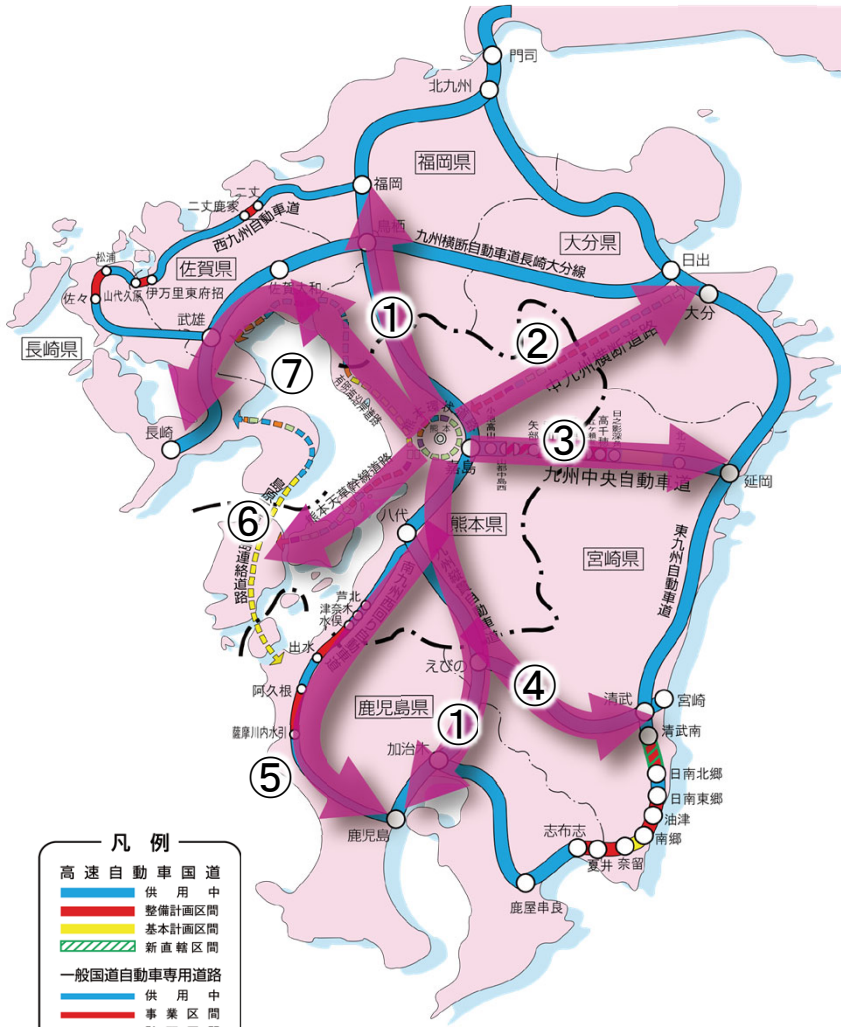


R4.10 撮影

2. 有明海沿岸道路の整備状況【ダブルネットワーク構想】

➤ 九州東進作戦による広域移動ルートや緊急輸送ルートについて、Wネットワーク化されていないのは、
中九州横断道路・九州中央自動車道・熊本天草幹線道路・有明海沿岸道路。

広域的な災害対応のイメージ



■ 緊急輸送ルートのWネットワーク化状況 (整備進捗率※)

- ①九州自動車道
(北側：国道3号とのWネットワーク)
(南側：国道219号等とのWネットワーク)
- ②中九州横断道路(県内)
(国道57号とのWネットワーク)
- ③九州中央自動車道(県内)
(国道218号とのWネットワーク)
- ④宮崎自動車道
(国道221号等とのWネットワーク)
- ⑤南九州西回り自動車道(県内)
(国道3号とのWネットワーク)
- ⑥熊本天草幹線道路
(国道57号等とのWネットワーク)
- ⑦有明海沿岸道路(県内)
(国道208号等のWネットワーク)

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0



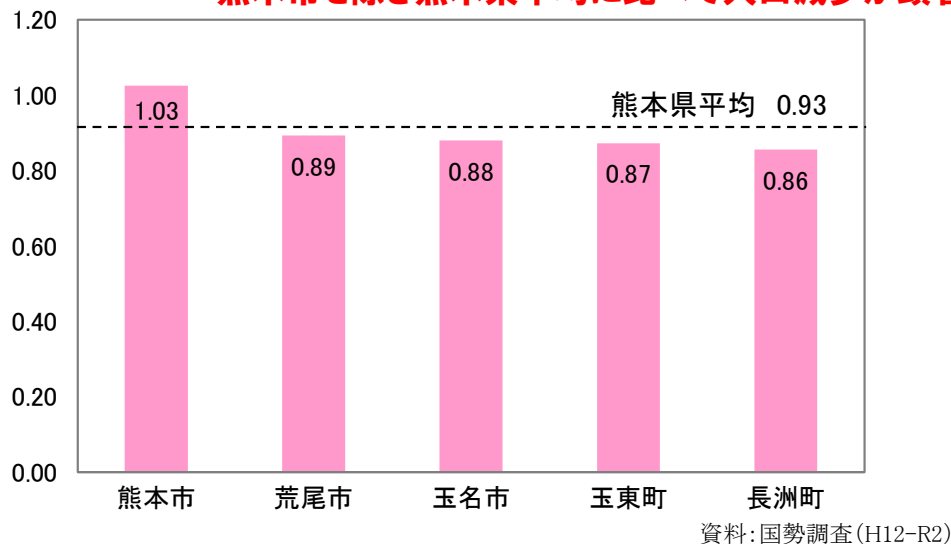
整備進捗率(%) R4.4時点

資料：九州の高規格幹線道路概要図
(令和4年4月)を基に作成

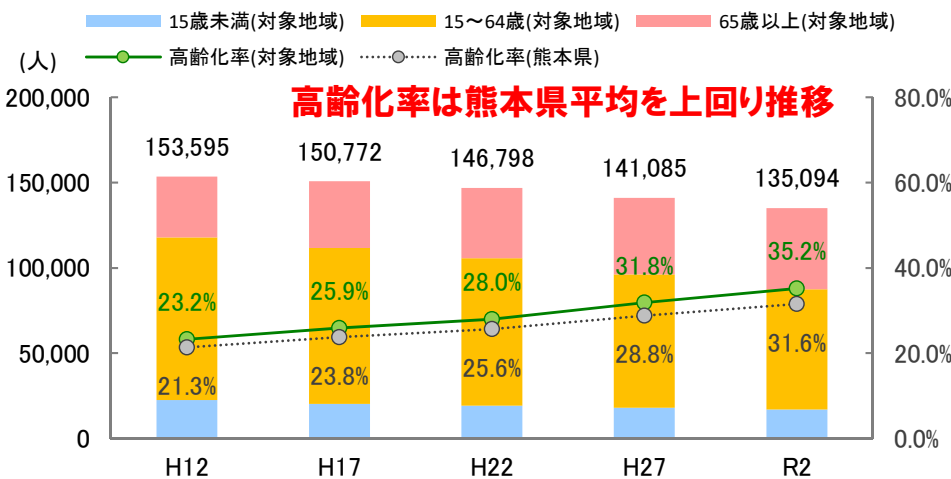
3. 地域の現状課題(暮らし)

- 沿線地域(荒尾市、玉名市、長洲町、玉東町、熊本市)は、熊本市を除き熊本県内平均に比べて人口減少が進行しており、高齢化率も熊本平均を上回っている。
- 特に、20代~40代の若い年齢の人口割合が低い。

熊本市を除き熊本県平均に比べて人口減少が顕著

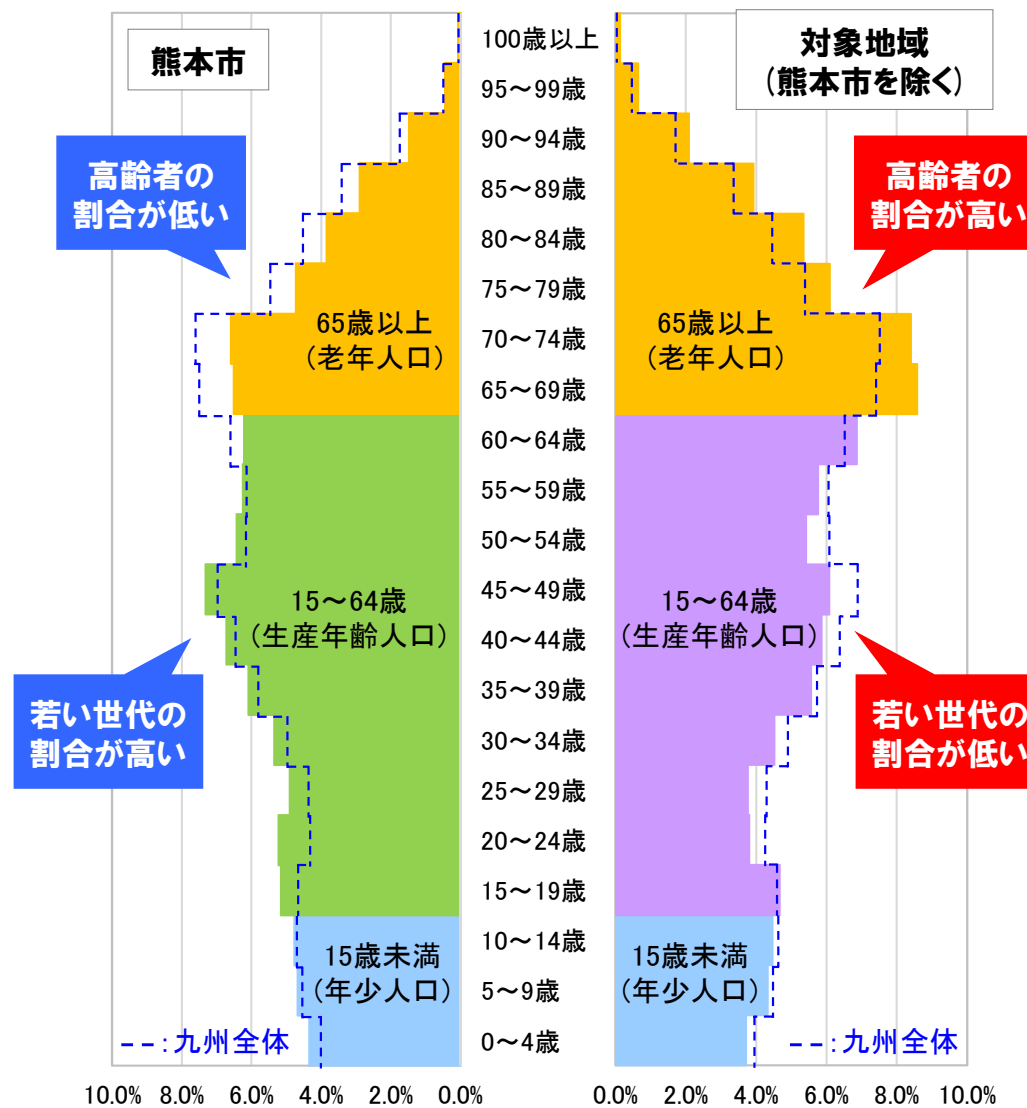


▲人口の伸び率 (R2/H12)



▲対象地域の人口と高齢化率の推移

九州全体に比べて、
高齢化が進行し、若い世代が少ない



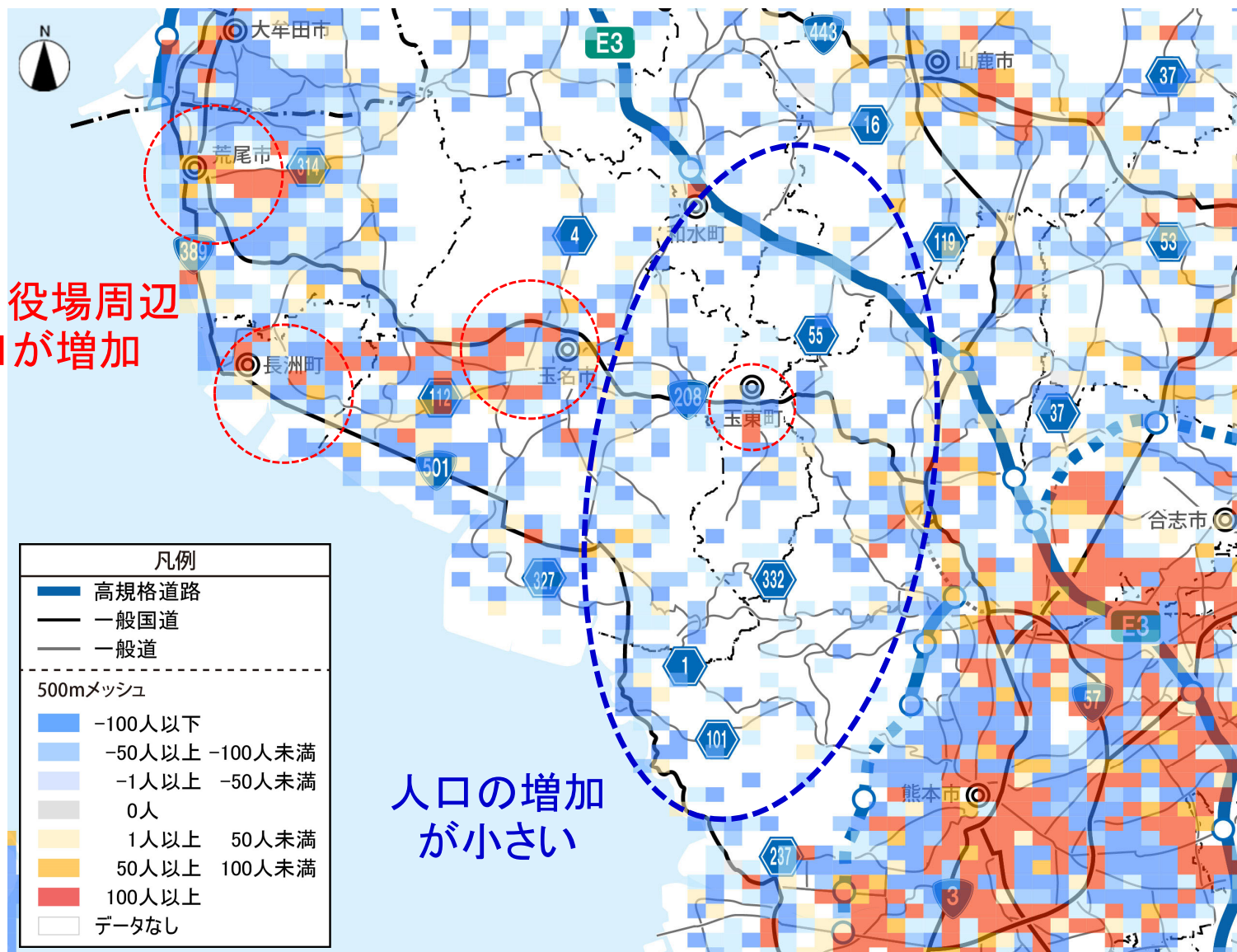
▲年齢階層別人口の割合

資料: 国勢調査 (R2)

3. 地域の現状課題(暮らし)

▶ H12からR2にかけての20年間の人口の増減をみると、荒尾市役所・長洲町役場・玉名市役所・玉東町役場付近で人口の増加がみられるが、特に、玉名市から熊本市にかけては大きく増加している地域は少ない。

市役所、役場周辺で人口が増加



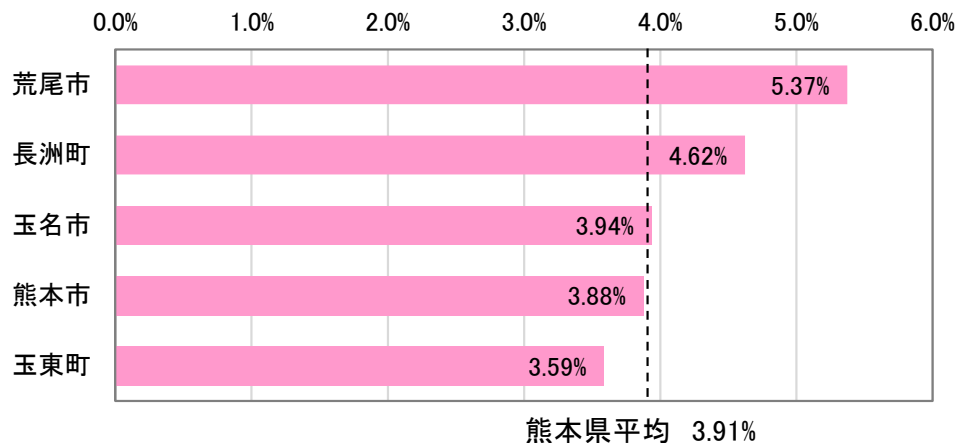
資料:国勢調査(H12、R2)

▲人口の増減エリア(500mメッシュ)

3. 地域の現状課題(暮らし)

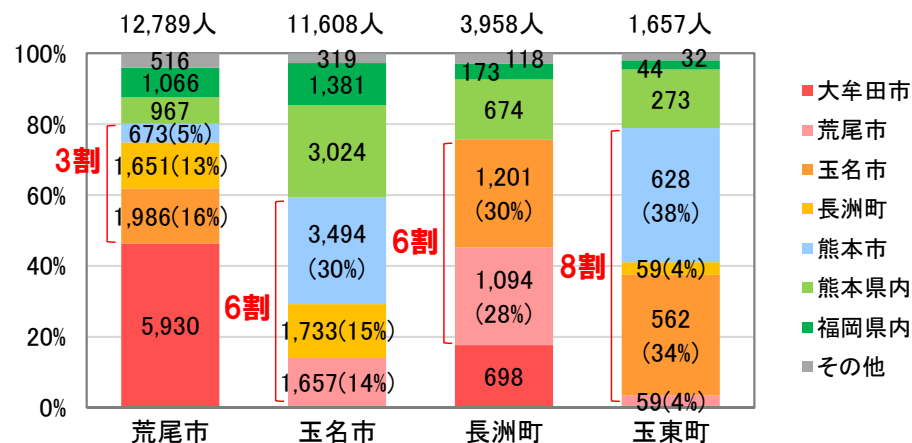
- 沿線地域は失業率が高く、熊本市・玉東町を除き県内平均と比べても高い状況。
- 地域間の結びつきをみると、沿線地域間での結びつきが強い。
- 沿線では、交通アクセス強化を想定した荒尾競馬場跡地活用等の開発計画や、定住自立圏の策定による地域一体となった地域づくり等が取り組まれている。

失業率が高く圏域全体の活性化が課題



資料:国勢調査(R2)

沿線地域間で日常生活での結びつきが強い



※15歳以上の通勤通学者数

資料:国勢調査(R2)

▲市町村別完全失業率

▲他市町村への通勤通学者数の割合

来訪者の増加が期待



交通アクセスを活かした 買物・観光・レジャーの発信拠点

資料:南新地地区ウェルネス拠点基本構想(R1)



圏域内での主な取り組み

●地域中小企業の振興

地域企業の製品・技術開発、人材育成、産学連携、企業PR、取引拡大、企業間交流等による中小企業の振興・発展を図る。

●雇用の促進事業

圏域の企業が地元の優秀な人材を確保することを支援するとともに、地域の求職者への雇用機会の提供により、圏域への定住促進や人口流出抑制を図る。

資料:第3次有明圏域定住自立圏共生ビジョン(R3)

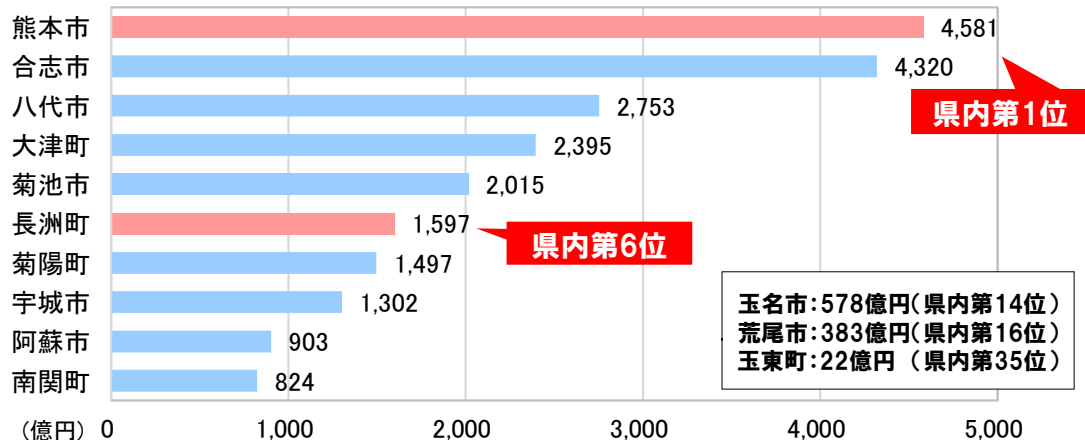
▲南新地地区拠点構想 (荒尾競馬場跡地)

H25年3月に県境を越えて 1市2町が新たに協定を締結

▲有明圏域定住自立圏

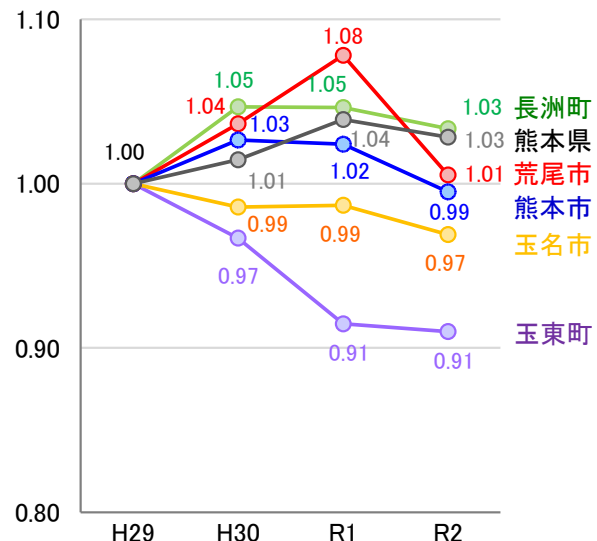
3. 地域の現状課題(産業)

- ▶ 熊本県内の製造品出荷額は熊本市が第1位であり、長洲工業団地・名石浜工業団地が立地し、造船やアルミサッシ製造が盛んな長洲町が県内第6位となっている。
- ▶ 製造業従業者は、熊本市・玉名市・玉東町が減少傾向にあり、製造品出荷額は玉東町・長洲町が減少傾向となっている。



資料: 工業統計 (R2) ※
 ※製造品出荷額は工業統計公表前年(1月~12月)の実績

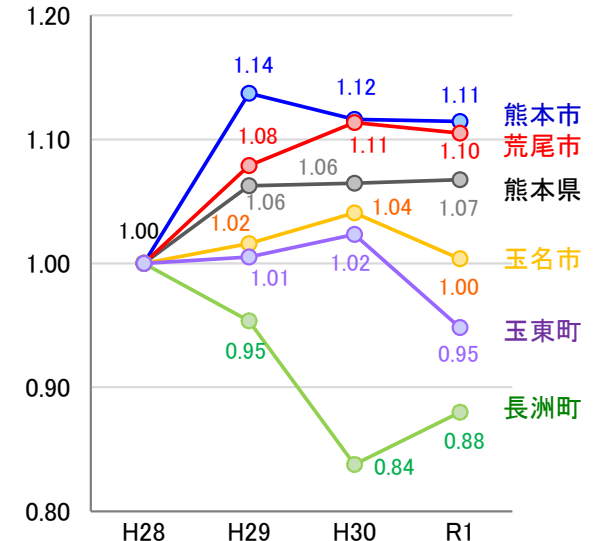
▲市町村別製造品出荷額(県内上位10位)



資料: 工業統計 (H29-R2) ※

※製造業従業者数は工業統計公表当年6月の実績

▲製造業従業者数の推移



資料: 工業統計 (H29-R2) ※

※製造品出荷額は工業統計公表前年(1月~12月)の実績

▲製造品出荷額の推移



資料: 第6次長洲町総合振興計画(R3)、造船業の現状と課題_国土交通省 (R1)

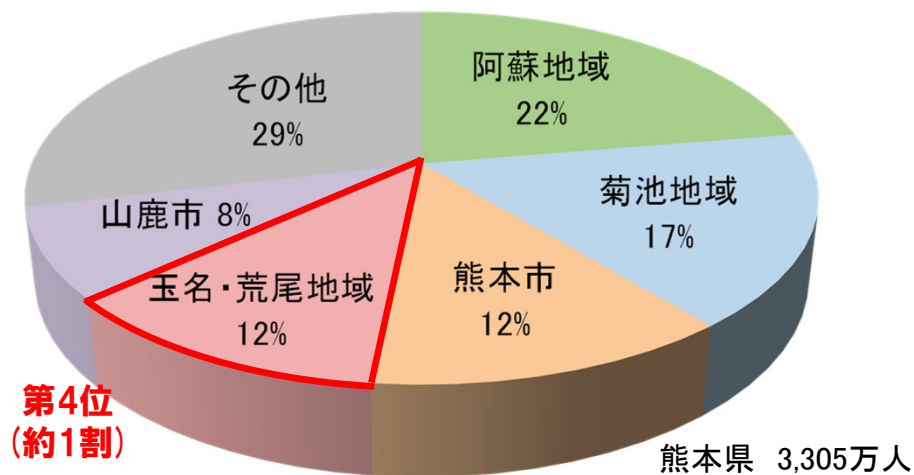
▲沿線地域の工業団地

3. 地域の現状課題(観光)

▶ 沿線地域には、世界文化遺産である万田坑をはじめとした観光施設が立地しており、県内第4位(約1割)の観光入込客数となっているが、近年の観光入込客数は横ばいとなっている。

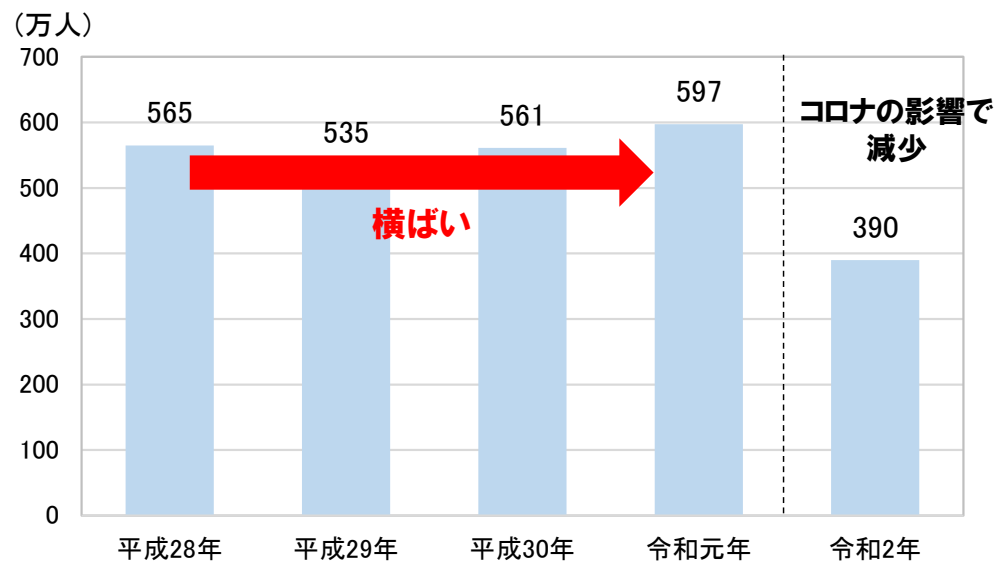


▲沿線地域の主な観光施設



資料:熊本県観光統計表(R2)

▲熊本県内における地域別観光入込客数

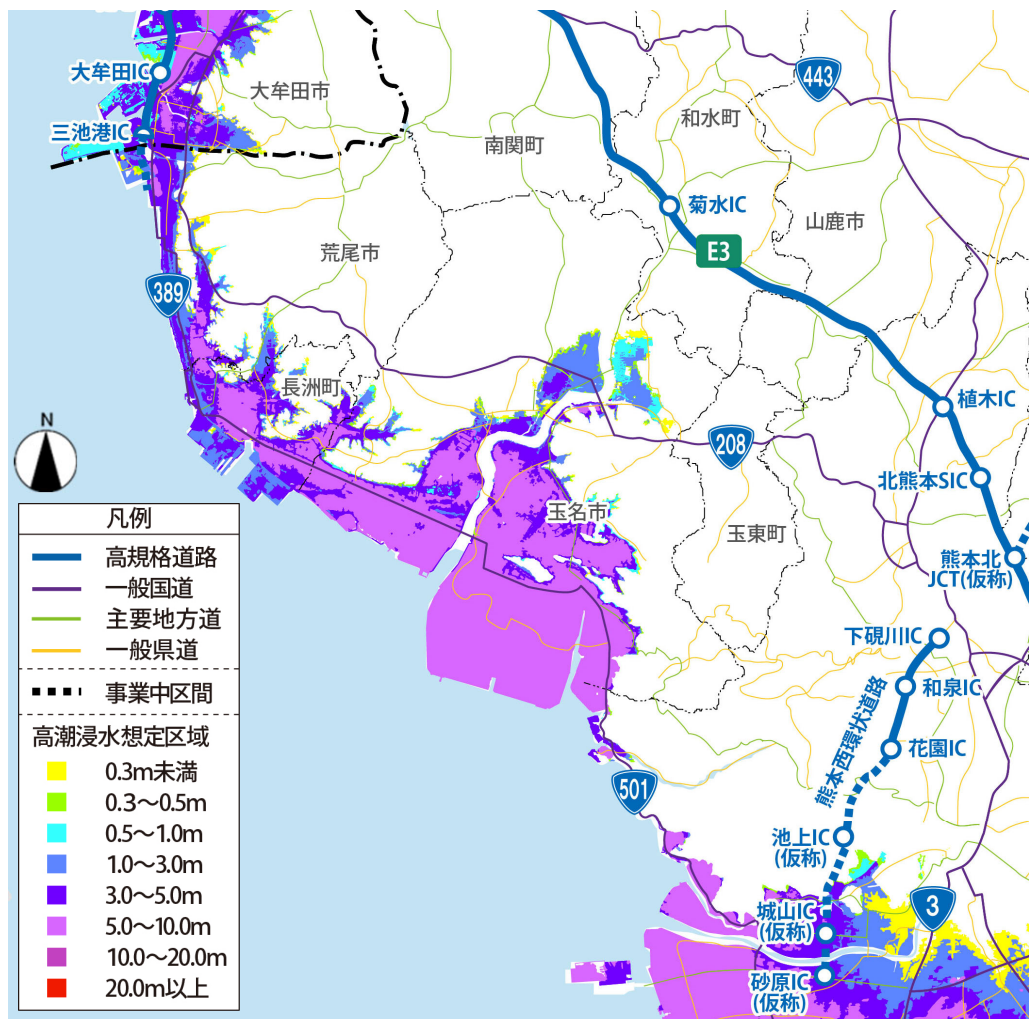


資料:熊本県観光統計表(R2)

▲玉名・荒尾地域の観光入込客数推移

3. 地域の現状課題(防災)

- ▶ 有明海沿岸地域の沿岸部には、高潮浸水想定区域や津波浸水想定区域が位置している。
- ▶ 沿岸部の主要幹線道路である国道389号・国道501号は、浸水による通行止めの高リスクな状況であり、国道208号も福岡県境付近や玉名市内の一部で通行止めの高リスクな状況となっている。



資料:熊本県HP

▲高潮浸水想定区域



資料:熊本県HP

▲津波浸水想定区域